

創立40周年を迎えて



会長 岸浪 一正

羽村市テニス連盟は、お陰様で創立40周年を迎えることができました。

昭和47年に少人数の同好の士が「羽村町硬式テニスクラブ」を設立するに当たり、当時の社会教育誌に会員募集を掲載し、更に行政のお力添えを頂き、基礎を作って頂いた諸先輩の方々の熱意と努力により今日を迎えられました。心より感謝申し上げます。

草創期はテニスができる喜びに、コートの良し悪しは二の次に、朝から夕方、ボールが見えなくなるまで楽しんだものとお聞きしております。

当時はバレーボールと共存、畑の土と同じ中で、テニスコートとしての土固めに薬品を撒く、重いローラーをかける、そのうちコート専用の荒木田土の購入には1面30万円かかる等など、都市計画課公園係との折衝で苦労した記録が残っています。

以来40年、団体会員が参加し、連盟内の各大会の内容が充実し、近郊市町の各大会、更には都下市町村大会に参加、東京都民大会、西多摩地域広域行政圏大会、連盟内行事としては創立の翌年からはじめた会員親睦テニス合宿の継続、時代と共にテニス界が変化し、名称も変える等々、私たちテニス連盟の事業の内容も変化して来ています。

昭和63年、西多摩郡体育協会から「優良団体」の表彰を受けて以来、平成20年には『第1回 東京都スポーツ功労賞』を受賞に与り、平成23年西多摩行政圏大会男子チームが優勝、日頃のコーチ陣の指導と結束でレベルが向上している証として、今後更に上を目指した技術向上とテニス愛好家の底辺拡大に、また、次の時代を担う少年少女の育成にも力を注ぐ事業を展開して行く覚悟でいます。

平成22年2月、ソフトテニス連盟との共同の要望が叶い、砂入り人工芝が完成したことで、私たちの活動もますます活発化してきています。

私の座右の銘は“本気“、テニス連盟の会長の重責をお引き受けして以来11年、就任の時に書いた「球友だより」の言葉、『**本気ですれば大抵のことはできる 本気ですれば何でもおもしろい 本気ですれば誰かが助けてくれる**』、連盟の運営は『会員総意』。

平成22年東京都体育協会から「生涯スポーツ功労者」表彰を頂いたことは、“本気”で取り組んできたこと、会員の皆さんと共に歩んで来られたことに、改めて関係各位に感謝申し上げます。中学生でソフトテニスを始め、18歳で硬式テニスに転向して以来、生涯スポーツになりました。体の続く限りコートには立ちたいと願っています。

羽村市テニス連盟創立40周年記念誌への執筆のお願いに対して、快くお引き受け頂いた、西多摩地区のテニス協会、連盟、クラブの団体長はじめ、並木市長、瀧島市議会議長、角野教育長、スポーツ推進課堀松課長、NPO法人羽村市体育協会、羽村市ソフトテニス連盟、団体会員リーダー、歴代会長各位には心強いお言葉を頂き、誠に有り難く感謝申し上げます。